



や っ か い ろ き ぼ う

八束色の希望

松江市立義務教育学校
八束学園
令和7年 9月22日
学園長 後藤康太郎

学園教育目標：ふるさとを愛し、人間性豊かでたくましい学園生の育成

8月の終わりから2学期がはじまり一か月が過ぎました。今年の夏も大変な猛暑でしたが、9月の中旬からは降雨も続き、朝夕は多少涼やかな風を感じる日も増えてきたように感じます。

子どもたちは熱中症対策で外遊びが制限される日もありましたが、その分体育祭の応援練習やデコレーションなどの準備に力を注ぎました。2学期は体育祭のほかにも、8年生の修学旅行、部活動の新人戦、ロードレース大会、音楽祭、連合音楽会といった行事のほか、総合的な学習などでの様々な体験活動や校外学習が予定されています。

普段とは違う取組は子どもたちにとって負担感がありますが、そこには必ず学びと成長もあるものです。そんな2学期になるよう子どもたちにしっかり伴走していきたいと思いますので、引き続きご支援ください。

令和7年度体育祭スローガン

翔^{しょう}輝 はばたけ青春の三原色

9月17日（水）厳しい残暑の中ではありましたが、体育祭を無事に開催することができました。今年から暑い時間を避けるため、リレー種目は1学期に行い、それ以外の種目を午前中で実施する方式で行いました。4年生をリーダーにしたゴーゴーゴー、7年生をリーダーとした中期パフォーマンスや応援旗の作成、9年生は全体をまとめながら、デコレーション作成やパフォーマンスを仕上げました。そしてその頑張りにしっかり応えた学園生の皆さん。八束学園らしい、9学年のつながりと成長を感じる素敵な体育祭でした。体育祭のたくさんの取組が、これからの学園生活でしっかりと生かされることを祈っています。

〈当日までの準備と応援旗の伝達〉



〈開会式・前期ゴーゴーゴー・競技種目〉



〈中後期パフォーマンス・デコレーション〉



応援いただいた保護者の皆様、地域の皆様、卒業生の皆さん、たくさんの温かいご声援、本当にありがとうございました。

少年の主張 松江大会

8月29日（金）、少年の主張松江大会が開かれました。本校からは、9年生の代表学園生が参加し、結果は、優良賞でした。代表に選ばれてから、何度も原稿を書き直し、本番では堂々と発表しました。全文を掲載しましたので、お読みください。



「人と比べること」

「私はあの子より劣っているから。」自分と相手を比較して、諦めてしまった経験はありませんか。

頑張っても勉強しても、友達よりテストの点数が低かったとき。学校の話し合いで、周りは堂々と自分の意見を言うのに、私はみんなの反応が気になって言えないとき。うらやましいな。自分にはできないな。小学一年生から中学三年生にあたる九年生までが共に過ごす義務教育学校で、私は長い間、周りとは比べ、「自分の方が低い」と落ち込んでいました。

そんなある日、家で動画配信を見ていた時のことです。「自分の代わりはいっぱいいろっているかもしれないけど、一人一人の存在は誰にも代えられない」。画面越しに届いた言葉が、私の心を打ちました。同時に、思ったのです。「このまま人と比べていたら、自分の可能性が閉ざされるのではないか。」と。

自分を変えたい。そう思った私は、昨年の秋、生徒会長に立候補し、任命されました。でも、一緒に生徒会に入ったメンバーは、部活動でもキャプテンを務め、自分の意見をはっきり言える人ばかり。比べて私は、まとめる力も、人前で何かをする勇気もない。学園のために尽くしたくても、別に私でなくてもいい。なかなか一歩を踏み出せずにいました。

だけど私が委員会で意見を出すと、生徒会のメンバーは真剣に聞いてくれました。「その考え、すごくいい」。「私だけでは思いつかなかった」。はじめは、私に気を遣って言ってくれているのだろうと思っていました。それでも仲間は、どんなにたどたどしい私の話にも耳を傾けてくれました。思っていることを、ちゃんと口に出せる雰囲気。それは、とても温かくて、背中を押してくれるものでした。

みんなのように前向きに、自分を信じて、周りを信じてみよう。そう思った私がまず取りかかったのは、卒業生を送る会の企画でした。私の学校では、送る会に一年生から九年生全員が参加します。そこで考えたのが在校生全員による、卒業生への歌のプレゼントです。昼休みや朝礼前を使ってたくさん練習をしました。「もっと歌詞に気持ちを込めましょう。」「笑顔で歌いましょう。」緊張しながら指示を出す私に、大きな歌声で応えてくれる一年生や二年生たち。自分のやる気が周りに広がっていくようで、さらに頑張ろうと勇気がわきました。

本番では、一年生から六年生までの元気な歌声と、七年生、八年生の大人びた歌声が一つになって会場に響き渡りました。歌を聴き、卒業生が感極まっていた姿は忘れられません。「次の活躍が楽しみです。」「学園生のために動いてくれてありがとう。」という先輩やクラスメイト、先生からもらった言葉は、今までで一番私の心に響いてきました。

生徒会の活動を続けるうちに、私は、人との比較を少しずつやめていることに気づきました。そして、色々なことが見えてきました。学園のために何かしたいと勇気を出して行動することが、何より大切なんだ。自分が頑張るたびに、みんながくれる言葉は、心から伝えてくれているんだ。誰の頑張りが一番なんてない、みんなで協力することに意味があるんだ。私が真剣になるたびに、誰もが私の成長を支えてくれている。だから、引っ込み思案だった弱い自分を受け入れて、誰かに尽くし、前向きに自己を表現したい。そんな自分の存在を大切にしたいと思えるようになったのです。

間もなく、体育祭や学園祭など次のステージが私たちを待っています。生徒会長だからといって、一人で責任を背負うのではなく、幅広い学年の仲間に支えられ、支え合いながら頑張っていきたいと思います。

「自分は他の人より劣っているから。」もしかしたら、誰かにとっては私自身も「うらやましいな」と思われる存在なのかもしれません。だけど私は、そんな人たちに伝えたいです。「人と比べるのではなく、コンプレックスに隠れた本当の自分を引き出して、大事に育ててほしい。一人一人の存在が大切なんだよ。」と。

比べてばかりではなく、誰もが自分の好きなことや得意なことを大切にして、創りあげていく社会。それはとても素敵だと思いませんか。